

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
解表剤 辛温解表剤 9		
まきょうよくかんとう 麻杏薏甘湯 (麻黄杏仁薏苡甘草湯)	祛風化湿	麻黄 1.5g・杏仁・炙甘草・薏苡仁各 3g 水煎し、1回で服用する。
金匱要略	主治は、風湿在表による全身の疼痛で、夕方に熱感があるもの。 風湿が表にあって経気を阻滞するので 全身が痛み 、湿邪によって陽気が鬱して 浮腫 （疼痛よりも浮腫が主）が生じ、外界の陽気が盛んになる午後から陽熱が増高して、夕方に 疼痛、浮腫 および 熱や熱感が強くなる 。 麻黄・杏仁 で宣肺祛風し、 薏苡仁・炙甘草 で健脾祛湿し、温服して微汗をかかせる と風湿の邪を除くことができる 。 麻黄湯 から発汗通陽の 桂枝 を除き、服用量も非常に少量になっており、 麻黄加朮湯 より発汗力は、はるかに軽度である。 日本での保険適応効能、効果 関節痛、神経痛、筋肉痛	